

# 特集

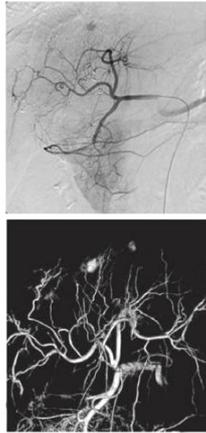
## 更新装置トピックス① 機能性に満ちた IVR・CT装置導入

この度、更新された IVR・CTは、血管造影像を観察しながら検査・治療を行なう装置に三次元画像が取得できる CTを組み合わせた、機能性の高いハイブリッドタイプとなり、どちらの検査においても、同室にて対応が可能となりました。

この装置導入前は、術中に CT撮影が必要な検査は、ストレッチャーを使用し、CT室に移動をしていました。移動に際しての患者様への負担も無くなり、より安全に手技が行えます。

さらに、同室において CT透視ガイド下生検といった血管系・非血管系 IVR手技をサポートできるようになり、装置の需要が高まりました。

その他に医用画像を加工するためのワークステーションやレポーター装置または、検査・治療に有用な画像を、瞬時に表示可能なマルチビジョンの採用など、数多くの最新機器を備えています。



これからは、従来の検査・治療に加え、低放射線量下での救急患者の対応やさらなる高度な治療が可能になるなど、大きな期待が寄せられています。

## 更新装置トピックス② 320列CTによる技術革新

画像診断において中心的な役割を果たしている CT装置が、優れた技術を持った 320列 CTに更新されました。

以前だと、体の周りを何回転かしながら撮影していたものが、幅広い検出器を使用することで、心臓全体、または脳全体を一回転で撮影することができ、ブレのない鮮明な画像が得られるようになりました。

この構造を利用し、同一部位を繰り返し撮影することで臓器の動きや血流を把握できるようになり、臓器の呼吸性移動や心臓の拍動、脳血流の変化など、時間経過による動態変化や機能変化を取り入れた四次元撮影という、新たな検査が行えるようになりました。

また、幅広い検出器は短時間撮影を可能にし、小児撮影、救急撮影に有効です。検査に用いる造影剤の量も減らすことができ、その上、画像技術の向上で低線量でも高画質な画像が得られ、患者様にとって負担の少ない検査を行えるようになりました。

